特別
A12
5085
1

ヘ12
5085
1

昭和51年10月13日
久保田好雄氏寄贈

51 4650

物ん[illegible]と

[illegible]いまゝいろまてめでた
[illegible]事とゝ[illegible]ふとい[illegible]
[illegible]ことの[illegible]
[illegible]物[illegible]
[illegible]八常法[illegible]国三[illegible]文[illegible]と
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ひん[illegible]東八ケ国ひ
[illegible]十[illegible]の内よりかし[illegible]の
大内外とゝ[illegible]せ[illegible]
宮の大ぐ[illegible]

けうはゐよ花とゑ屋うまうの金ぴ
いまうらゐゐいはれよつけてもかけ
うう事ゐなし天地よおれていまう百
町海さ十六かうもの数い一百八文
ぐんなりらうこうくこざうしこの
中よと中のめだう八百人下ゑ三
百人まかりゑんにうられうゑ第一の
をかうよい義ゑ人姫ゑ人指人
乃をかうをゐけうまうれば大ゑ
同九のざうまうれよ。姫人をとりて

年況乃ものゐ下らうなうゑ心まやうじれ
ゐ乃てまうれ心をそうにさとう命とをむ
ゐくうひるうゑ仕ひうゐ時大ぐう
しとの乃ゐ乃ゐいはくをけとうぶ
ぬとと文をゐ屋うなうゐ乃又せよゐこも
ゐぶくれまうれとうのゐのあまりに
まやうざさなれむちとうろとうを
おゐしゐゐ文をとめて作られゐハ
とのれとうご作のもりといへとも。我
くんようのうゐあなりいうなうん而へ

もゝ屋しなひとなりけるを文赤
へ文きかしこまりうけ文人百人が
一人よりたんまでも我と食とかうり
よもるれまいぞせしとそこのなり思
ひ給へせとと吹ちいとなれもちか
らなりとゆうちいてきうかて文き
きなりあしよ海をてゆ御ゑ
はのとかいそとて三回屋ゝうゝ
つうよりう

ちからにはよとなりろけていやんわろん
へよりたせやーとりひてかてうん
さいあわじへよりこのそれ
三角屋の
なりとれらるをと
かてて三角屋より三人てやうろうはるるび
なりものいわれてたうせのへとい
そしそおふしぞてきうたべこきまよ
てうありうるやとりひこいてうろに

されど主人を大事なるものなれば
くれぐれもきんじけるかどぐちへ
あるいてとうとものそばなる屋うりて
さればひさわしとうと人も風くまあ
ゆとよせひくとこゑをきて一人をとの
てあるとみるもいてなるふとるいと
とくるひてまいりつけいせ給へ
とてうちへとびへてさてどいたくと
ゆひんもいたるとれあるんと
てそれらいいくわれこいとる

かりてとれよりうさ時あるいひろうち
ゆるいるつにいくとして和ふとん
もなふとるくるみふりゆへいづ
色ゆふいなふまとのつよいきのつへと
いくれど文をひとさなふとそいの
ゆたひさどい馬ふりゆつしの
くれどあるいこさるさとい馬かすあ
いるとゆいゆ屋そしてゆへどこれまとこ
ともあるりゆへとりそれいと屋とん
まなるとてをれまそてゆふいれ

心ゆくまでとり大ぢうなれば祝ひの
文を人もいはとりちそれぞわがなのめ
なるべきふよろこびてぞとなさるものふそ
ひとつかてとり月とつほどる文
をあはびふのりそふかりてもよりこう
ときやくとり月もぬりまいりせいぐ
たりまくいはとる三尾ひとはなそび
ぬへるこもはと尾さゆうりくいと
いそれそおりとりまりわまれをぬく
まるれ三尾うま一りこりせそりそれ

り文を三尾屋てうりそ三うへを事
なれ文をうしはいんもりくそ人もいろ
三ろくそ三尾とうくそ病もるく命
なりくそ心よかふまもれそれそれば
三尾のわひ十しいぬもりてかいそれ
いはりかうりるを色者よそなりり
けるそれだうはひりつとりへはは孫の
うはは十りうづ三尾りるりくそうへり
めそりくなりはとりよはのかいそのの
三尾やりをとうしくそ三りくへて我三尾

とど屋をけう文さう三間しなけけて
屋しほいかぶさうなくかうきもし
人もみる姫だのまゝよりひ。ぼさう
なくもいとすそうんまふそひくの
ぎうけうさう海しに月日ふそへてあゆ
そくのさなり海さうほどよさうへてか
いえんいして。文正常是ことり。空方
よ都とを二百ぢらやう。るうしのまん
せかうというちふ七拾人所ういしあゆ
ざいけのうそ三ぐんぢのありさう海

いをとを海うなりひしてそぶりも者とい
しもかく屋とそおうめてをした
いをぢうなり。さうれびうちのゆまちを
ものべさうのひんなりうおうさうこれ
ぎうひとおんにさうへとりをじなあら
くうかうべさとて。ぼう文正よそけう
うれうぢのこうぢうかくしぶうし
ぎう三百人。まかう百人けうひうぢ下そ
ぬ百人うの海うと中下美かう百人けう
うひけううしいう三拾人けうひけうか

海のてきれいなひとつのけしきをぱんし
そしてもみそしてとゝろをしぐるさま
一人も御ものいはれもわけられぬ人
くとよほうりてそしてとゝろ
にあと人大くらしのへまりのうぱ
よさうひし文をいうごりなれも者と
なり京よりあさうちてわまりのをいく
とよナぜんの衣とりたくしひや
海さうもう海うんぷ大くらしとろ
よみも海ぷもせ文正よりさうり

うめもりとことりなりちとめしもせ
さこしめ鶴とりそれも大くらし
とのかしりこことにも海しもぱ
らもしとの文正とめされそう。文正うれ
しれ書ものなりて時とうしたさ
まいりそう。大度よかしこのりてわそう
ど。大ぐらしこの正らんしてもをいや
しくたかやうふくほうめでうれ
のそそはれへしとそしたそう
なせとそじけばかたしてかそれあと

こゝあるふんまでこしてあるとれいふ
文盛酒しようぶうなれも者ようりて
四うちとひぐふしいつかおとしたまに
十せんのえもとれもといてゆうら
めとりこかくはけるくもの多せ
いめるふ事とひんなのそとへはつと
よなかこゆうけたいもとふとい
屋しれ分るれたかるとう度とう
い事よとふひいまあ
ふ屋ふへいうはのそとうなまだされ

よいつで元よくなふとくしゆ
ふんこかよ称わやまうんセ
百度うどとまてひ宮ようなう
屋そうあうどとまとしゆとし
めでふくはうれ初とへたくべき
みいかう一人も西屋ふしわそれいさよ
くなる事うれ人とみとうふ
ふとそ一のそうるれなんちつわ
くせそうとのもうたみのな
らんみそうれ人の物ようう

なりべくれいさ〳〵おとあん
ぶつよう寺とおもふのなさ事いぜん
せの事こいなりあさ海しなり
さつ〳〵神仏をあがちとのことを思
ぬなりぶんちゃくもちゃくなりて
といそれ〳〵神仏より事〳〵せあ。給
めて一人なりとも法さばめて給
まれといのりもせとせんひとぶ
さてとゝへのそわれなりれば
ありがたくぞんじいと海りて文ぶい

りつ屋ゆうへりぬ房とちゃぶ
わさぜおりまさいありとく〳〵ふぶ
星へ西ゆ房りとへといそれぶぬ房さて
大宮国ゆ文りゆうりてそれとも
いぶとい
ふぶれ
なれ

いっさい白大文字の御ふ
たをひらきてぞたちぬ
ほまとおぼしけるとやなほと
こうぶのおいたちもいとかこちけり
文字けのもとなりのてたくさしこの
ゆゑらん事ゆゑ心とう
けたりかうしたりしかうりと
なりのもとをいとくさぐさ
どもにしたりふてふ長者人も
ものぐるほしきことにぞ
しめしてぞうたいけ
ありかつたいけ

じゆへ、いまさらゆるされ事
とおもひ、へ、ぞうゝゝわさゆく
こそゆへ、ぞうゝゝなくふとゝさへうて
ゆるもゝへとうちとけてかゝりける
ぬ房ぜいうこゝゝいうめやゆ民うじた
さなゝゝで四ゆ方十七ゝゝ八十三ゝり
あひだゝゝそうゝふ二十やこ十のゝゝ
こそうじべゝれ民十めりまでむ
まざう立民たゝでいとゝさゝまでとて
いうでうゝじへゝさゝのゝゝだゝぶちう

らとよゝゝびゝゝいゝゝゝゝぬ房のゝゝめよ
きゝ民ゝゝびゝじゝゝへゝゝゝくゝたゝゝも民ゝゝを
うけゝゝへ文ゝゝゝゝ

きぶ、いざくさ屋のことやき
らんとこそ中そうめ房酒とす
神仏の酒そうこひるでいなりか
ふれまつりのいさりなどうつ
ゐとしそざりへどもそのことく
なくゆへ。扨て神仏のたちうひ
そいらんどしれいざはうどまだ
大うこそうとて大内神へ
まいらんとてうふそはう
らへうかてのりのろく

のそうとそろへて大内神の内前に
ゐりかんとくぶいのうまり三ゐ
三百三拾三どのらいいを目うす
ゐうせ神つうふ法ぬそうに一人乃
けうしとそひのとといのうけうよ。七日
とりやうんげううさびくをきき
酒とよけうんぬしうふうなんちう
りしのさうかうんうよ山七日の
あうざいたうのくまれ。りしんとと
みふなうくさりのるよ。されたこれと話

そもそもてまんけと二ふさ結ぶとぞ
もとふいなくとかたゆゆうちにと絡
れなのかるそうろうこびふるぬかう
ドけうそうこちめ房そなるるく
なりめ文正より絡ひてうぬひて八ケ
間よそれそうれのことうそてぞ
ひまくとどドそうそ房うく月日か
さるりていそうまるるくめ此こ
ぬうくいうひめ志とそうそな
けうふ文正さていうめそうもやく

そくドけうかひるくめ文とうみ
めうでそうそれでひうちかそ
ドてれとるしれめ房乃ちそうぶ人
の汚るめて姫之志ものちめてれ
事めめさうくいうかくそとれ
でさうけとていまそりてれうし
そくひなくうけそれ姫志めめ
ぬまもで文正はず先乃之鬱めハ
めでうけこの事かうなりりの
とおいうくくうそくかうちそく

きたりてあはせまゐらせ
れぬ物ゆゑにさのみ
くれひあるいでたりし文正
うえどいふものそして四百そんだあ孫兵
の時さへなんなみとして三うり移へを
海ていり姫君とりたてまつ
おせられしとおもひうれしく
とてせざりそれだおんのどくなふ
でと文正四百けりめ詩こうれく
物ともいとぎりうり文正あはりに

こうぶくとひけり御物ゆゑなくして
まいのごとく文正こうしてあるめけら
れ事や大ぎうじこのみ十人ぶん
をもう海ませともあるえひあるこそ
りいへまいりとくいまやすこく
こうまへとして三うりそれだのれ
かくて姫君とりせど文正ものこうり
はとてまくへよりやそたづへ
をまとあさのこいいうで人のめいとと
ひこのごとりうこ移よ氏

なとう一人へとのことをうけて常長（つねなが）さま
さんやそのほかなごりいとおしまいて
ところどころをあらためてくるおのおのへと
いのこりこしたいらちのごとし
そのときひとりどのもうされるいうあれ
心まるれ事とおせられいはゆさ御さ
ことしは神仏のさ御さのおつとかけ
ものまいりせてこしていでたりせ給
てゆへしものつるる御事なり。
なごり神さ御のほとりなりと給

和とる尾しめ御ほとりへとりつる花とび
なめとりたせのるるたさいるをけふ
御しめさるくたる大ぐうしたるよりこたる
いりれのつべられ姫えとりもの給せ
給へと八ケ国の御名かりけいたまれ
じこすなりせ給ものべさは姫えそちち
の御とかとをまいりさせ給へ天下すー
なりびるる御ほとりみえてさせ給ひてそ
ゆへ文正の恵ゲそちとりた国のかう
げちりみるくばふ弥よりてせのふ

くげ天ゐ人のさんせきの小ぜうめと
なりてせのうへ色〻まつりあべき事ども
おほかりけるやおくそほうしうめてた
くはへまきた新ぞうてとあるかぐらん
まにおほめうれいたとりそんぷ其
時文ぞうちゐて相ぞめしれあの
ものうよりぱうぞしうるうへうびまんとて
文たうう
ぱうさうちうのさうひ
ふんあうせうう

文正ハ世姫ゑとゝ[illegible]
[illegible]
のとあゆこゝ[illegible]
げ侍り山姫ゑ[illegible]
うゑまゝんけ[illegible]
あねゑをゞまゝんげ[illegible]
とゞゝゝゝゝゝ[illegible]
あ年月とふゆゞに山姫ゑゝゝ[illegible]
ゝゝのゝゝゝゝゝ[illegible]
こゝしてゆゝゝゝの小[illegible]

さて酒さらてで凡そのふ笠のわて
なと酒とゆこしかさゆくとふゆと
かるたりいとわとしつゆさご
せねと成ころざもあり。行ゆ
はあてもくひるくめてくてさ
ざくれさ酒ゆりたろうなり酒事
でなくらそくもっ酒ゆくゆ小ゆ所
まちゆたいぢとつさ所方ゆ門とわ
らいにさの美すとうふたさぷもと
ものりゆかざりこぐひと地しゆさ

酒とゆかて屋ぐらなりとらうゆ蔵
うへくくいさ酒ゆくさとえびてくへ
うはくれくゆひくうくれで八ケ四乃
大若これとくさうれもくとふくも
つさの数わゆのうりもまげし
くれでわけくれゆれやかくれわはまの
ならくゆうまれくれ事のあさ酒ゆさ
よ。こゆも人くんとうもれるで恋
わと成くうゆ屋くさくれゆまと丸
くくるくいふわくれひゆさなん

ごとのをぢぬしさんのくらひとの
心ゝかけうのひゝのつゞの事と
けてとゝのひゝゝゝゝ文正ゝ大
臣かうけの位とかうしれぢめてた
くゝんばくゝゝゝゝひゝ姫君ゝゝち
ゝはしゝとゝさゝこゝゝゝゝゝゝもに
りしゝゝゝ狩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
色事ゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝて姫君ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たちつ。大石かうけのはちひあのふる
ちりもちげさしこくなれどれ
とうくへいぶしの事いたるべさぐこ
はちうのかいあいつれみあとまあり
らおべさてとのくこ海へで文正うけ
うあちりはとふめみたりのはたを
つたうりのれいうみけたくおま
ととたのこならばたしさみあぐう
たかくしるこちあへと言ざろう
大くしじこのあひかといまん

事のうれりさとなりひ仕とかう
しうへとあたるよりはせ西屋んじ
とあけまいくせはとはへとあかへり
けつ和文正さ言へゆりて門りかけ
ゆちあくめてこうや。大ぐしじこの
うんたちとしこあとりまいたをさ
ちとおうんくふれくいでく
ひとと中せとけこりうり和歌元元
うへ年りてかうしのちぐれ事こ
そはち。大元司文仕よめごみうち仕

[illegible]とかうしてとてもふ心
しけみうちあそてとくれば姫君は
やとこいくべきさらくとだんらうへと文
ばあるくらりいうあくとわうれ
くらうはたさめのあうちまどして
さてあうそれだこけるあこて
ひらさんのおせとみていかれ
のまはおはもあるやいめ
うけうはれるあうりあのいうれ
が心よくうりどこの[illegible]

文正殿のなげかせたまひしを
とうわしくこそいへとこゝろなる
いとてしらせたまひ大文司
どのもとりそのゝちの事
文正殿事みてくれたる事な
ゝことかゝれたる事みて
もかゝれたる事やう
ゆへもしらぬなくかれとも
それを大くしこゝろはせ
て文正殿のみめをこそとうとと

さらに事こと如
いとはひこの事をそこのうさ
くつはひとをそこられ久文正
むとやこのかくしてけつは姫元
なるべき事ゆよはゆ大文司九代
せいんよわつかりいとやはれ落
ひいこいたつなるこら田百なことはい
こうひるく今はうはゆおくよの
とかりせはくこはなそれて
うんくどさそれば姫元のはひけつは

姫元のはひそは何とうさのそなけせゆよ
ゆさをとひはゆうちんとかうふう
せはゆゆさはうちゆうはくはとと
つゆうの事うへ文のはつあちれ
ゆ事ゆゆこうはゆ事ゆゆはゆ
なくはゆはなりてもとれ
ゆとをゆあまにはとれ
りはゆゆ八ケ四の中ゆはゆ
こんもちはゆこんはふ志
んはこんはゆとはこはとの

ゑへぶ文正ぶぎうしたる文正とりのこ
とをふりてぶぎうしつる大納言のより
ぬぴうゑ風うなりつじとをとらぬい
らせいが大君からうけのとれもしくふて
行せいへことをとてこうもなりじんぎう
の大ぐうじどもりついどうとてい。とべて文正
三つどもりついどうとてい。とべて文正
がじとをれを風しぶををくなどの
あまくぐらせ行ひろうとゑりた
まいていふりの祝も三つなどの

風うゑりてなしかしぼたひぶをふし
せよあるはゑはけさたのくるひとの
見心ぶけてうなるぶうたよとをむう
じとさこていそれと
三つの大ぐうじどのゑ
行ゑまいゑゑめりいへ
なとをとそれぶいり
わるんどうゑ祝よ
よゑをとひたまひ
ゑう

さらにとけんぞ
しもされはとうぜく
しれるを恨とかて
ハのおとゝ風とひゝら
ゝ姫ゑうこの
のおもてをぞと
おかつゝ
とをんと多夕ぢらんせらそ
今ハ云葉もなく
をはとうなりてぞけみ
とうさし大ぐ
ぢうへいらうなし
大文可及ぜメ
ぢ一のくみゝは
一面せどけあそ
ほどみいとと

なぶらるなり。ふとさうれらて
るんをと神仏をさとぶけてくてほう
けぬるをれなれば。文正ふうぬのことの
ご心中さぞあらんとあはれなこと
くおぼれ初だ文正ふうこぶまうさ
をなりけるほどにいばいきちんうち
つきをせるをまじてんうのれば
なりそのうちもぶのくらうど道童こ
ゆ人へさくとおりてくぶうそうしん
なのあるをいい物このうめのいうけう

いたしたのけうとうとあるくんさぬの
よかんとこうやとあいまされぜん
もなうそう四月ばば大名かうけ
ひじをあるもくとのそとか
けをせるが心よいまだてさ
ひとうのことをきんけうそ
いうあれくしるのうんと
ゆうれだ四月ばばひのされば越
もかてのことこうしゆへどあちこくく
てうやうへとうだくとそ

わるいなんりのなりたみうく
心ゑのよかんとしうとめうゑへを
かゝゑの大文字のゑ事と今ゑゑ
ゆゑう事の因ひうるゑ出うなひ
ぬゑ物なゝば四十六がうのうちと、
つれなてもゑゝせんとゑゑゝびの
ひんかりのゑでさゑゑひうせゑ
いうう大ぐうじとのゑいてびめて
なめとるゝせとの地ぐうとめれ
いうてはゑひゑゝといへたせどん

で。我心よりはゝ人ゑ百あこ
いへたうへさん人とゝだゑとやゑうちの
ざうしなよいたゝしとめゑのちの
生ゑゝうけ生ゑゝうゑれをゝう
めてもゑゝうひいてゑうといへよ悦
よゝゝとゑゝうりゝうんとのゑへば
かゝこゑゑゑゑゑけのゝうりゑうと
のゝ二たゝうべて人のゝ事めも。祝
ゑいさゑふもゝゑゝうのにていへで
ゝんゝもゝゑゑゝしどゝゑうれども

りうんとてられもら文正ともな
ときろとかさらへめてかんばめず
うれ事こうあれなんだらうしと先
とさこうめしてさぶこれよ行つけ
てこぶいみまいてせよとものはだちやう
なりぬきよろこびやすて回りと生活
うんと仰とかうしりならりとんなる
とも別だきものうれとのれはよの
りの文みぶひるめうれえ事こ
て今生えているありがうれ事へ

りさとうかぞいうんとぶとのれ
ふこぶべしかんばめんぼくいてかき
だんとの行へば文正ふうれしげ
よおりひてかしこ面りてうける
ともいたもおらやり事ともら
いひものにてはいたんだいとりはたん
さりなりいるかへとうさうひ
いへ京とうふてもうせる面へば
うなるべいいれ高へうなりて犬
んうりのこうへはけのかぬめず

きやうとゝ称ふ所ゑ志ゑ地の生れ行
いゝ時ひらゝとものがたりける事ゑ
ちゞたる事やゆゑとゝ称ふいて
もおへさるものなれ生まこのひゝ
時とんなこなりとてとてまいゝ
せをゝゝぺいゝでかゝ今ゆ司の正さう
とゆふなりゝ系ゝせゞ。ゝ風ゝう
らのものけをかゝゝてゝとも世
よゝとぞゝいはわんどゝやうゝ
のゝゝりよゝこゝひゝ。文正ゆ彦み

りけゝふゝれゝゝのゝやゝゝゆゝ
してさのゝゝふゝなゝてゝとゝゝぺゝやう
の事ゝゝもゝゝからゝゝゝゝゝゝゝるの祝
ゆゆゆゝゝゝゝゝゝゝ

屋さうなくらいなやこのとんもき
を酒をあかく心としてまつあかか
なりさとくどれそれが姫ええ
のふ酒とかなやのの作とばいうでか
とむんりべさなしれた山事にとと
あふうなる酒さうれけるのだとよ
ものくとは我みとばさとようりのと
りさらよ酒月のの作なりとものを
さとわんよはいとかんとうけ
なるいんどろめや。なんも作はいん

なるがとおいくさはふりけんん
どんとあ神のさうみとあへそ
かれありさ酒いうなりいまなりと
ても。こ代酒て祝の心よかよの夜
なるあるといしくなるなる
ひあり。秋のけとこなるし寝とも
げうありさまとたんうなく
うはくくあきそうよへよいうなり
とかよあうとあうもうとよおも
とん事とばいくおもして大文月

どの作まて時さへさこしめしハけ
ていへぢ生うれよハかりのよのなに
あいへぢてあさになりて心のまま
とこなひ。ことへようなのいとなと
とところ。ひへハなあとせんかく
ものくいさゆとあ司れへも能やう
よりいて行いへとをば大文司丸
もよにりのるる司よ彩り
行ひていしとりさせ行ふねて
ところこしめしいるる。の文ぢがいしとめ

ものくまてあんぞんの心ともてゆなり
いくほどのなたのものせよ生ぐさ海と
うへて仮のよのぼるふとりとめんと
りて国うちの人こもれもくとり
それいはれたこそいれるいかぢすり
行いたうるひいまこと申せば力れ
よぢ寺と山へぢあ司もいほどいさり
こりとあのひうろべこさいちてあこ
けうふ今ちう行いなあとまちてと
くなんとて。行へのかり行よ形表

ゆ同をち圓こしらわたまりて。若
の地ごろあるゆ中みゆ之の義人まで
心をかなおまるゆ伝のゆとしたひを
ちゆゆまらゆたらしたまゆいゆゆど
ゆけわなで天下のゆゆ之二位乃中
将ゆしまとさまりめりて伝事で
とらつひさを拾ゆれいうへまで安
ゆちんとろ
事めゆゆ
なゆゆ

ひさもちの四のらんまをよかしゐあれたる的
弁の弥さ大夫同ごとりのごとしれ
文正とりがいろりまめやうとく
みるくさるるにあれこちてぞうれ
大夫同みとはるうしいがとうけは
まで子成りてくてかしゐの大的
弁よいろりまいへど。ひろ夫同どの矢と
二人まうけていがいづれもうけて
くんだへるんどしとべて文正がみを
り人もる。心さゐあるろけなるけふ

くはり。天人のようがつもあく屋
とりはいらち高けもこかくしはしが
きこいれどそそせみなりつぬべきを
なりぶれいさたはれのりぞとるー
はりどはさるとく佛のこちよいん
とのぞとなしいとよく思ひれ
を教ずとうりおへで中ねをたく
くとさこしやしてそれちはんお
くれあ殺々ハんりとなりる月
めるいうりよりまちぐりみや。紙

と茶とさこしめしてりぬくと首
よ高ぢこあけそれ、屋まのりめぬき
を海ひそり天下のこそれ海ごろ
恐とたてて。山こ寺くめてはいのま
ありけつつれがあ月日なれど河と
なくれあそりにそり八月十又天の
月くまもなれ天とくそりあり
結ひて中ねどのまいなりもなりき
のつとなくさあまりしせたひそり中ね
ごのくはなくそ月とれらんどて

月をれと屋つかてもをく
うはりにいくもこしらく
秋のよとかく
こうやうを海して西祇とか
ほとあてゝ海ごろ行くべし
西をしれせさうなて西祇のさてこと
海とよこへう祇のもてをせを
まえ